

とちろローカルサミット G8セッション

テーマ：「持続可能な地域と教育」



(M) 清水 昭

株式会社ヘルスクリック 代表取締役
エミリオ森ロクリニック 院長
医学博士、脳神経外科専門医、産業医
日本体育協会公認スポーツドクター
JOC強化スタッフ

<略歴>

- ◆ 1975年順天堂大学医学部卒業、同大脳神経外科学教室入局、ニューヨーク州立大学医学部講師、防衛医科大学校講師、同校医学研究科指導教官、自衛隊中央病院診療幹事 国家公務員共済組合連合会 三宿病院総代、大宮医師会市民病院長、さいたま市小児救急医療センター院長を経て、2005年より「皆様に健やかで幸せな毎日をお暮らしいただきたいとの思い」から現職。



(K) 宮澤 保夫

星槎グループ会長

<略歴>

- ◆ 日本全国に保育園・幼稚園から大学まで様々な教育施設を展開する星槎グループ会長。
- ◆ 愛犬はロロちゃん、目に入れても痛くない存在
- ◆ 1949年生まれ(しし座O型)
- ◆ 1972年アパートの一室で生徒2人の学習塾を開いて以来、子どもたちのために必要な学びの場を作り続けてきた。今日では全国で9000名が学んでいる。現在も新しい教育を模索して、次々と新しい試みを行っている。
- ◆ 北海道芦別市に本校を置く通信制星槎国際高等学校は今年10周年を迎える。



橘川 幸夫

株式会社デジタルメディア研究所 所長

<略歴>

- ◆ '50年東京生まれ。'72年、渋谷陽一らと音楽投稿雑誌「ロッキングオン」創刊。その後、様々なメディアを開発。
- ◆ '96年(株)デジタルメディア研究所を創業。インターネット・メディア開発、企業コンサルティング等を行う。'06年文部科学省「新教育システム開発プログラム」に「ODECO」が採択され、開発・運用。'07年「教育CSR会議」を立ち上げ、企業・社会と公立学校をつなぐための回路作りを推進。'08年「インターネット時代の新体詩運動」として「深呼吸する言葉ネットワーク」を推進。原稿執筆、講演など多数。
- ◆ 【最近の著書等】
- ◆ 『ドラマで泣いて、人生充実するのか、おまえ。』('08/バジリコ)ほか共著、編著多数。



篠崎 資志

独立行政法人科学技術振興機構
社会技術研究開発センター企画運営室長

<略歴>

- ◆ 1986年科学技術庁入庁。以後、原子力、海洋、情報科学、先端医科学等の担当を経て、昨年11月より社会技術研究開発センター企画運営室長に就任。
- ◆ 2001年の省庁再編の際は、科技庁サイドより科学技術行政、学術行政の融和を図るための行政組織編成に取り組んだほか、2002年から2005年まで在ウィーン国際機関日本政府代表部にて核不拡散や原子力安全問題を担当。2005年に文部科学省生涯スポーツ課長としてスポーツ振興を通じた地域活性化、子どもの体力低下問題に取り組む。現在、JST社会技術研究開発センター企画運営室長として、「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」「犯罪からの子どもの安全」領域など社会問題直結型の研究開発領域の企画運営を担当。



関川 三男

帯広畜産大学教授
帯広畜産大学地域共同研究センター長

<略歴>

- ◆ 昭和27年生まれ 東京都出身
- ◆ 平成 4年 4月 帯広畜産大学畜産学部助教授
- ◆ 平成 8年 3月 ニュージーランドMIRINZ・オーストラリアCSIRO
文部省在学研究員(平成8年4月まで)
- ◆ 平成15年 8月 帯広畜産大学畜産学部教授
- ◆ 平成16年 4月 帯広畜産大学大学院畜産衛生学専攻教授、専攻長
(平成18年3月まで)
- ◆ 平成18年 4月 帯広畜産大学大学地域共同研究センター長(併任)
- ◆ 座右の銘「程々の幸福」,「5快=快×(食+眠+便+笑+楽)」,「有言実行
日々是発見」



榎田 竜路

音楽家 プロデューサー
NPO法人横浜アートプロジェクト理事長
北京電影学院ニューメディアアート科客員教授他

<略歴>

- ◆ 1964年5月18日生まれ。
- ◆ 法政大学経済学部経済学科卒業。
- ◆ 専門は内観的身体技法による身体運用及び文化芸術の研究。2008年4月にはボーカル・ギターを担当する3ピースユニット「真荷舟」より初アルバム「rainmaker」発売。また、子どもの感覚教育を目的としたNPO法人「横浜アートプロジェクト」の理事長として、学生映画祭はじめ日中韓三国映像交流事業や、砂漠緑化プロジェクト、コンサート開催など展開中。



合田 倫佳

帯広商工会議所青年部
帯広市PTA連合会 会長
アサヒ電気(株) 専務取締役

<略歴>

- ◆ 昭和35年帯広市生まれ。北海道大大学院修士課程終了。
- ◆ 昭和62年(株)日立製作所入社以来、磁気記録媒体に関する技術開発、製品開発に従事。特にノートブックPC向け2.5インチ磁気ディスク装置では製品化プロジェクトから開発参加。数多くの製品群をOEMとして市場に出荷。平成14年に帯広市に戻り、父の経営するアサヒ電気(株)に入社。現在、専務取締役。
- ◆ 平成17年～18年 帯広市PTA連合会副会長、平成19年5月より帯広市PTA連合会会長。現在に至る。
- ◆ 現在、
- ◆ 帯広市青少年センター運営協議会 委員
- ◆ 帯広市高校間口対策委員会 委員長
- ◆ 帯広市青少年問題協議会 委員
- ◆ 帯広市学校教育市民検討委員会 委員
- ◆ とかちプラザ運営審議会 委員
- ◆ 帯広市総合計画策定審議会 委員
- ◆ 北海道PTA連合会理事 ほかを務める。



松田 美夜子

原子力委員会委員
経産省認定消費生活アドバイザー

<略歴>

- ◆ 1963年、奈良女子大学卒業
- ◆ 「廃棄物処理法」、「容器包装リサイクル法」、「家電リサイクル法」、「自動車リサイクル法」等の制定に関わってきた。また、中央環境審議会委員として、地球温暖化問題、環境税などの審議にも参加し、講演、執筆、テレビ・ラジオのコメンテータなど、多方面で活躍。富士常葉大学環境防災学部教を経て2007年1月1日付で内閣府原子力委員会の常勤委員に就任。

<最近の著書>

- ◆ 「欧州レポート―原子力廃棄物を考える旅」(02年、電気新聞)
- ◆ 「循環資源材料学」(04年、山海堂) 有岡正樹他と共著



吉田 博彦

NPO教育支援協会代表理事
NPO小学校英語指導者認定協議会専務理事
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会総合的な学習専門
部会委員
文部科学省学習意欲向上方策研究委員
(財)日本英語教育協会理事他

<略歴>

- ◆ 1952年大阪府枚方市生まれ。
- ◆ 1971年早稲田大学法学部卒業後、海外子女教育、インターネット教育事業などを行う民間教育会社経営にあたる。
- ◆ 1997年「教育支援協会」の設立に参画し、99年教育分野で最初のNPOとして経済企画庁(当時)の認証を受け、全国組織のNPOの代表理事に就任。「放課後からの教育改革」を提唱し、文部科学省や教育委員会との協力によって、全国で社会教育活動をすすめる、さまざまな教育事業をおこし、地域教育力の再生に取り組んでいる。

【最近の著作等】

- ◆ 『地域の教育力はなぜ失われたのか』(月刊社会教育2007年)他

セッションの様子



テーマ：「持続可能な地域と教育」

セッションキーワード

- ◆ 様々な悲惨な事件が生じているが、それはなぜなのか？ 学校の問題で済まされるものではない！
⇒ 家庭、学校、会社の問題の連鎖、つまり社会全体で人を見守るシステムがないことが問題
- ◆ 個と公共と言う二分法の中にいる人間の心の不安定さ
⇒ 地域社会の人間関係や家族の絆の重要性、人との関わり合いの醸成が大切
- ◆ リアルとバーチャルの区別がつかない中で心の重要性の崩壊
⇒ 自然や社会へのふれいあいが不在、遊びの自己中心化等の問題、気づきのなさが原因

テーマ：「持続可能な地域と教育」 住民による具体的アクションプログラム

- ◆ 家庭、地域の持つ基礎教育力と母親力の復活
 - ◆ 家庭、地域こそ、人の生き方を伝える場であり、基礎教育の実践を教えること
 - ◆ 祖父母から学ぶ非文字学問の大切さ、父母、隣人からの叱りを行い人との関わり合いを教える
- ◆ 自然体験等の体験学習教育の普及
 - ◆ 親も一緒に学ぶ運動へ
 - ◆ 人任せにせず、仲間とともに生きてゆく術を伝える
- ◆ 地域共同活動への積極的参画を
 - ◆ 地域の自慢できる大学、組織を活用する
 - ◆ 気づきを身につけ自然と他人に感謝する心を持つ
 - ◆ 地域の誇りを知ること、皆で共有すること、子孫へ伝えること
 - ◆ 志を同じくする人々が力を合わせて生きてゆく
 - ◆ 映画塾を実践し広めてゆく
 - ◆ 「とかちの・・・」のように東京は実践場所として活用する